

## この本を読むみなさんへ

みなさんは、着物にどんなイメージを持っていますか？  
夏のお祭りのときに浴衣を着たことがある人や、  
七五三のお祝いに着物を着たことがある人もいるかもしれません。

「着るのが難しそうだし、気軽には着られない」  
「いろいろなルールがあって、めんどうくさそう」  
というイメージなどから、着物をあまり身近に感じられない人も多いでしょう。

でも、昔の日本人のふだん着が着物だったように、着物はだれでも着られるもので、  
難しいものではありません。身近に感じられるようになれば、  
洋服と同じようにファッションの一つとして、おしゃれを楽しめるようになります。  
とはいえ、TPO（Time 時 / Place 場所 / Occasion 場面）を守ることも大切なので  
この本を読んで、知っておきましょう。

第1巻では、着物の種類やルール、着物に必要なアイテムなど着物の基本、  
第2巻では、着ていくシーンや季節ごとのコーディネートのお楽しみ方、  
第3巻では、着付け方やヘアアレンジ、着物に使える小物作り、洋装との合わせ方など、  
より実践的な楽しみ方を紹介しています。  
手作りの小物を身につけるだけで、着物の楽しさがいっそう広がります。

着物は日本の伝統文化が詰まった、海外からも人気のある、とても魅力的な衣装です。  
七五三や卒業式、結婚式などのお祝いの場以外にも、  
旅先やちょっとしたおでかけなど、着物を着られる場面はたくさんあります。  
いろいろなシーンで積極的に取り入れ、着こなしてみてください。  
着物はみなさんを輝かせてくれるでしょう。

織田きもの専門学校

この本を読むみなさんへ ————— 2

## 1章 着物の種類を知らう

着物の種類と格	6
振り袖	8
黒留袖	9
色留袖	10
喪服	11
訪問着	12
つけ下げ / 色無地	13
小紋	14
つむぎ / 化繊	15
木綿	16
浴衣	17
着物はいいところがいっぱい!	18

## 2章 着物の基本

和装の組み合わせを知らう	22
帯の種類はいくつ	24
和装に必要な小物アイテムを知らう	26
帯あげ	26
帯じめ / 帯どめ	27
半えり	28
足袋 / 草履・下駄	29
上着 / バッグ / 髪飾り	30

## 3章 着物の歴史

着物の始まりと移り変わり	32
さくいん	39



この本の内容や情報は、制作時点（2023年11月）  
のものであり、今後変更が生じる場合があります。

自宅でも洗える  
ふだん着の定番!

# 木綿

木綿糸を使った織物の着物です。吸収性がよく、さらりとした着心地で、絹の着物に比べて手入れも簡単なので、ふだん着に向いています。全国各地で作られ、産地によって柄や風合いに特徴があり、価格もさまざまです。高級なものでは、重要無形文化財にもなっている久留米絨が有名です。

日常づかいのバッグなど何でもOK。

ヘアスタイルは自由。

半えりは自由。着物が地味なら色半えりをアクセントに。だてえりはつけない。

名古屋帯や半幅帯を。着物の色柄に合わせて選んで。

さらりとした着心地。格子柄や縞柄など、素朴であたたかみのある色柄が特徴。

足袋は色柄やレース生地など自由。下駄もよい。

帯と羽織ひもも爽やかなアクセントに。

着方も簡単  
夏限定のラフな着物

# 浴衣

浴衣は、平安時代に入浴時に汗を吸わせるものとして着られていた、「潮帷子」がもたくなっていきます。次第に入浴後に着られるものに変化し、現代では肌着の上に直接着られる、カジュアルな夏用の着物となりました。かつては藍色の生地に白い模様が入ったものが多かったですが、最近ではさまざまな色やデザインが登場しています。

ヘアスタイルは自由。アップにまとめると涼しげ。

一般的に半えりはつけませんが、半えりをつけて着物風に着てもよい。

素材は綿のほか、麻、化学繊維などの吸水性のよい生地。

半幅帯や兵児帯が基本。

かごバッグやきんちゃくなど、夏らしい素材を選んで。

足袋はかず、はだしに下駄。

こんなときに着よう!

- ・ファミレス
- ・カフェ
- ・買い物
- ・デート
- ・旅行先
- ・お祭り

## 男性の着方

### 袖なし羽織と着物

気軽なふだん着として着るときは、着物に袖なし羽織を合わせます。着物と羽織の色合わせてコーディネートを楽しみましょう。半えりや足袋の色も自由です。



こんなときに着よう!

- ・ファミレス
- ・カフェ
- ・買い物
- ・デート
- ・旅行先
- ・お祭り
- ・花火大会

## 男性の着方

### 着流し

羽織も袴も着ず、着物と帯だけのスタイルを「着流し」と呼び、男性のもっともカジュアルな着物の着方です。ちなみに浴衣の場合は、着流しにするのが基本です。



# 着物の始まりと 移り変わり

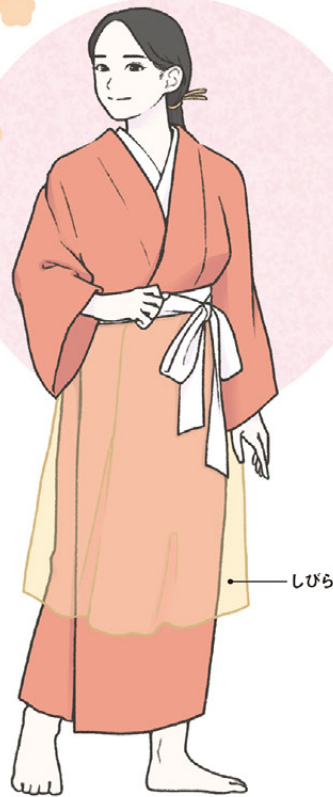
着物がどのように生まれ、発展してきたのか、その歴史を見てみましょう。

## 着物の原点は 平安時代の小袖から

「着物」という言葉は、もともとは「着るもの」という意味で、衣服そのものを指していましたが、洋服を着るようになってからは、和服だけを指すようになりました。現在の着物は、袖口の開きがせまくて動きやすい「小袖」と呼ばれる着物が、もとになっているといわれています。平安時代から着られており、当時は貴族の礼服用の下着として、庶民の間ではふだん着として着られていました。男性は小袖の上に短い袴をはいたり、女性は前掛け（しびら）をつけたりして、着ていました。

## 時代ごとに 変化した小袖

鎌倉時代になると白が一般的だった小袖に色や柄のあるものが表れ始め、やがてその上に着ていたさまざまな上着が省略されます。室町時代には色や柄がさらに華やかになり、武家の婦人が表着として用いるなど、身分を問わず小袖を着るようになりました。江戸時代にはさまざまなデザインが生まれ、帯の太さも変化します。袖の丈が長い「振袖」が登場したのも江戸時代。戦後は洋服を着る人が増え、小袖という言葉は使われなくなってきました。



## 縄文時代

旧石器時代までは毛皮でつくった服を着ていましたが、縄文時代には、植物の繊維を使った服を着るようになりました。お祭りなどの特別な日には、色のついた服を着ました。

ふだんは男女ともに、模様のない素材のままの服装。

大人の女性は耳飾りをつけ、顔に顔料で模様をかいていた。



## 弥生時代

朝鮮半島より伝わった、縦糸と横糸を交差させる機織りの技術のおかげで、絹や麻の布が作られるようになり、身分の高い人たちの服に使われるようになりました。

(上流階級の男女)

